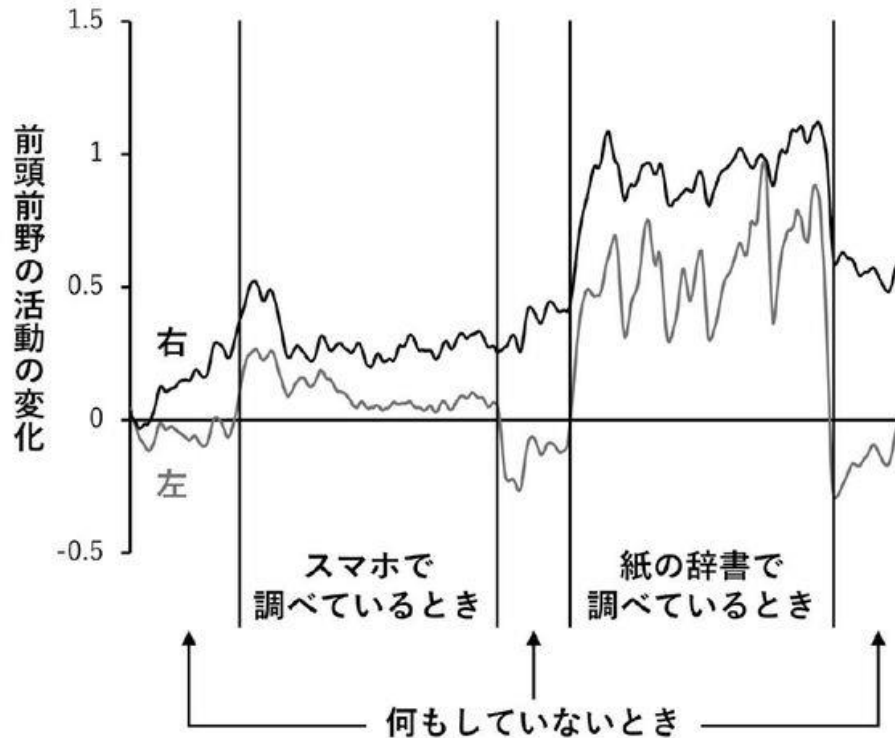


## (2) 正しい学習法への回帰

### 【最も重要な語彙力は「紙辞書」でなければ育たない】

図表1 言葉を調べているときの脳活動



※東北大学加齢医学研究所 川島隆太教授 著作より抜粋

①「Google効果」や「デジタル性健忘」とも呼ばれているこの現象は、スマホで検索した情報は、覚えることができないというより、そもそも覚える必要がない情報と、私たちの脳はとらえているために起こる。「忘れたらまた調べればいいや」と脳は最初から記憶することを放棄してため、脳が持つ記憶という機能を、インターネットに頼って「アウトソーシング」しているような状態という。

②紙辞書では5つの単語を調べるに応じて、前頭前野が生き生きとはたらいっている様子がある。また、実はそれ以外の時間も調べる作業の間は、活動が高く維持されている。紙の辞書で単語を調べるためには、頭文字のツメを探して本を開き、柱を見ながらページをめくり、指先を器用に操りながら文字を目で追う繊細な作業だ。ときには目的の単語だけではなく前後にある単語が目に入り、気になって読んでいることもあるだろう。このように、紙の辞書を引くという行為そのものが前頭前野の活動を高めていると考えられている。

③経済協力開発機構（OECD）が2015年に発表した、世界72の国と地域に住む15歳の子どもたち約54万人を対象とした調査結果によると、「学校にあるコンピュータの数が多い国ほど数学の学力が低い」「学校でインターネットを使うことが多い国ほど、子どもたちの読解力が低い」ことなどが報告されている。